

「カラッポの会」第一回総会で

「子どもたちをまもる」初心あらたに

「カラッポの会」は11月2日(土)さいたま市「With You さいたま」で、「カラッポの会」総会+記念上映会を開きました。総会々場には19人の会員と12人の一般参加がありました。総会は、当期活動計画として「子どもたちの受け入れ開始」を掲げました。「カラッポの会」は、そのために三つのことをおこないます。

- 1 放射能被害になやむ現地への理解を深め、現地との連携につとめます。
- 2 会員をいっそう増やし、空き期間有効活用、寄付金募集などを積極的に行います。
- 3 地域貢献につとめ、子どもや家族などが安心して休養できる環境をつくれます。

そのほか、予算、役員体制が提案され会場参加者の拍手によって承認を受けました。

放射能汚染から2年8ヶ月、子どもたちとお母さんたちの環境がきびしくなっています。「保養」や「汚染」を口にすることが「復興」のさまたげになるという意見が、現地であからさまに広がっているからです。「カラッポの会」は総会を区切りに「子どもたちをまもる」という初心に立ち返り、「大人力」をひとつにしようと思いをあいました。

現地福島、相馬高校生の「声」きく

第一回総会を記念して、福島県立相馬高校放送局顧問、渡部義弘先生をお迎えして講演・上映会をおこないました。上映は、福島現地、福島県立相馬高校の生徒たちがつくったドキュメントと演劇などの作品。子どもから大人へと成長する高校生たちに、原発事故という大災害が、どれほどの衝撃となっているのか、現在進行形でつたえます。相馬高校放送局は今年のJCC(日本ジャーナリスト会議)特別賞、第60回NHK杯全国高校放送コンテスト優勝など高い評価を受けました。



作品をつくった高校生は、震災後に相馬高校へ入学しました。作品のひとつ「相馬高校から未来へ」では、在校生応援団が新入生に大きな声で「喝」を入れ、新入生が大声で応える伝統セレモニーが紹介されます。在校生は新入生に「お前たちは、震災をのりこえながら、よくがんばった。相馬高校生として認める」と叫び、新入生が泣きながら「はい」と大声で応える。上映会参加者は、このシーンにあちこちで目頭を押さえていました。

渡部先生は、この作品制作は生徒たちにいっさいまかせたと強調していました。先生はご出身が相馬高校、しかも、高校時代は放送局の部員だったとのこと。教師として帰った母校で、原発事故をのりこえて生きようとする生徒たちに、心の叫びをあげるように励ましつづけた。それが、大人そこのけの作品の完成に導いたものと思います。渡部先生と相馬高校に会場から大きな拍手が送られました。日本中の高校生に、大人に、いや世界中の大人に見てもらいたい作品です。【上映作品/「今伝えたいこと(仮)」、Girl's Life in Soma、相馬高校から未来へ ほか】

福島の子どもたちが「おうち」見学に来ました

11月14日(木)11時、福島の子どもたちを乗せて大型バス(ここカフェ長瀬バスツアー)が「おうち」見学に立ち寄りしました。カラッポのおうちはバスの入れない場所にあるので、国道をはさんだ木材チップ工場に家主がお願いし、作業広場にバスをとめさせていただきました。15分ぐらい説明。「鯉のぼりが立っている、あれが、カラッポのおうちです。駐車場は隣の土地で何家族か来ても大丈夫。そばにあるトタン屋根の二階建てが管理人の居るところ。畑もあり久しぶりに土いじりをしたいという方はどうぞ。長瀬の川もすぐ近くですが、この時期はもみじ狩りハイキングが人気です」。お母さんたちは、使い方の質問をするなど「カラッポのおうち」に関心を示してくれましたが、子どもたちは、秋空を飛んでいるパラグライダーを眺めてはしゃいでいました。



ドキュメント「双葉町の記録」上映会で「おうち」紹介

11月10日(日)「続・原発の町を追われて～避難民・双葉町の記録」映画上映会&監督トークショーに勉強参加しました。なかに双葉町の避難当事者の方もお見えになっていました。発言の機会をいただいて、カラッポのおうちについて紹介したところ、すでに「おうち」のことを耳にしている方もいて、より詳しく聞いたので応援したいと言っていました。避難者の方からも「子どもだけでなく大人でも利用したいが大丈夫か？」など、具体的なことの質問を受けました。

福島にとどまっている方だけでなく、避難している14万人の人たちも「居場所」をもとめて関心を寄せていただいていることがわかりました。

【事務局からお願い】「カラッポの会」総会で第二期(2013年10月～14年9月)会計予算は、堅実&積極型とすることにきまりました。収入については会員を積極的に増やし(目標140人以上)、また大人のできることのひとつである「寄付」をお願いしてください。皆さん!ご協力ください。

軽自動車は管理に必須アイテムと判断、維持費を予算化しました。しかし、堅実予算で執行しますので、車本体の寄付または破格情報、引きつづき待ちます。そのほか、備品の購入については控えます。現物寄付を歓迎します。NEW:寄贈していただいた電気ポットが壊れました。

★大人の気持ち

「十二月二日に埼玉に避難した友人家族と合流して泊まりたい。空いていますか?」と福島からの問い合わせ。初めての利用申し込みに喜ぶ▼しかし、しばらくして「どうしても日程が合わせられないので」と申し訳なさそうに断りの電話。「いいんですよ、気にしないでください。お待ちしてます」とこたえる▼でも残念!いつまで待てば「カラッポ」のおうちに子どもたちは来るのか?と不安になる▼初心に帰らなくてはいけない。子育ての昔を思い返せば一泊旅行に出かけることでも大仕事だった。現地に学び理解を深めよう。「放射能が心配」とつぶやけば「神経質!」と言われるお母さんたち。そのひとり一人の心配事に耳を傾けて事情を聞き、私たちができることをする▼フェイス・トゥ・フェイスがベスト。できなければメールで、手紙で私たちのメッセージをつたえよう。「カラッポのおうち」は埼玉県の友だちの「おうち」です。一〇〇人の友だちが待っています▼じっくりと待ちましよう。子どもたちと家族の安心の居場所、休養の家をしっかり管理していきましょう。

長瀬やなせ「カラッポのおうち」の会・事務局 ◆連絡電話(FAXも) 045-933-1792(管理人 杉村長世)

◆郵便振込口座 00250-9-136022 カラッポの会 ◆ゆう貯口座 10210-3511241 杉村葉子

◆e-mail karapponouti@gmail.com ◆ホームページ検索は「カラッポのおうち」で

※ 管理人への連絡はできるだけメールか郵便(226-0021 横浜市緑区北八朔町1842-4)にてお願いします。